

第 1 日

第 1 会場

I-1 源氏物語の指導研究 その二

－新教育課程における教科書を通して－

岐阜教育大学科目等履修生 山 田 丈 美

平成元年、高等学校学習指導要領が改訂され、平成6年度より学年進行で実施されてきた。教科書もそれに伴い順次改訂され、今年度、4月にすべての教科書が出揃った。古典教育においては、新しい科目として「古典講読」が設けられ、従来の「古典」が「古典Ⅰ」と「古典Ⅱ」に分けられた。新教育課程のもとでの「源氏物語」の学習を教科書から読み取るのが今回の発表の目的である。調査の方法としては、(1)それぞれの教科書で「源氏物語」のどの部分が採用されているのかという「教材化」の面からのアプローチと、(2)採用率が高かった「若紫」巻の脚注を教科書別に比較するという二つの方法を試みた。(1)(2)ともに、「国語Ⅱ」「古典Ⅰ」「古典Ⅱ」「古典講読」の学習順序とのかかわりや、教科書会社間の差などを軸として比較検討する。

I-2 説明的文章の指導法研究

－「論理的思考力」の育成－

埼玉大学大学院 深 谷 幸 恵

説明的文章教材のほとんどは、「帰納論理」の型を有している。この特性を生かすために、説明的文章指導の中心を、表現(作文)指導に置いて、以下の経験による仮説を実証したい。

- 1 「論理的思考力」育成の初期段階において、「帰納論理」を指導すると、子供が理解しやすい。
- 2 「論理的思考力」は、読解と作文両方の指導をすることで、具体的に体得させることができる。
- 3 読解の過程と作文の過程の共通指導項目に、論理的な文章構成とキーワードの概念を置くと、効果的である。

本発表では、小学生に身に付けさせたい「論理的思考力」を具体化し、教材の検討を行い、指導過程・指導案・ワークシートといった指導の試案を、実践可能な形で提案していきたい。

I-3 教師による説明的文章の「論理」のとらえ方

－インタビュー調査を通して－

鳴門教育大学 間 瀬 茂 夫

【目的】説明的文章の読みの指導では、文章の論理を理解することが重要とされる。しかし、授業においては、教材の論理構造ばかりでなく、授業者の持つ論理についての考え方が、教授内容や教授・学習過程を大きく規定すると考えられる。本研究は、こうした授業者が意識的あるいは無意識的に持つ説明的文章の論理のとらえ方がどのようなものであるかを明らかにすることを目的とする。

【方法】本研究では、論文や授業報告等において明示的に表されたものとしての論理ではなく、授業者の心の中に必ずしもはっきりとしたものとしてではなく存在する論理をとらえるために、発表者が質問をし、授業者にはそれに応えながら、意識されたことをそのまま話してもらうというインタビュー